

《株式会社エフエム東京 第418回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 27 年 5 月 12 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数6名(社外6名 社内 0 名)

◇出席委員(5名)

横 森 美 奈 子 委員長	渡 辺 貞 夫 委員
内 館 牧 子 委員	ロバート・キャンベル 委員
川 上 未 映 子 委員	

◇欠席委員(1名)

秋 元 康 委員

◇社側出席者(10名)

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
石 井 常務取締役
平 常務取締役
山 科 常勤監査役
村 上 執行役員 編成制作局長
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
松任谷 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(2名)

唐 島 専務取締役
藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (事前試聴:120 分)
「TOKYO FM&JFN present EARTH×HEART LIVE 2015 supported by JA 全農」
2015 年 4 月 22 日(水) 19:00～21:00 放送

<< 議事内容 >>

議題 1: 最近の活動について

■ 自社ニュースメディア「TOKYO FM+ (プラス)」を開設

4/20(月)から、TOKYO FM とジグノシステムジャパンが共同で、自社ニュースメディア「TOKYO FM+ (Plus)」を開設しました。昨年 12 月から大手ニュース・キュレーションアプリ「スマートニュース」の協賛で試行していた SCHOOL OF LOCK! を起点としたニュースサイト「SCHOOL OF LOCK! News」を発展的に拡大したもので、TOKYO FM の 150 以上ある番組を対象とし、各番組の自主取材ネタやゲストトーク、選りすぐった音声コンテンツを活字化。毎日 5~8 記事をインターネットに配信、ノンリスナーに拡散していくことを狙いとしています。

このニュースアプリ「スマートニュース」上では、SOL! News の「チャンネルプラス」(専用ページ)を引き継ぐ形で「TOKYO FM+」チャンネルが初日から開設されており、26,000 人の購読者を引き継ぐ形で配信が行われています。告知効果で現在の購読者は 40,000 人を超えました。引き続き「番組の活字化」を超えた、新しいメディアとしての面白さを追求していきます。

今回、TOKYO FM が自ら専任編集部を立ち上げて本格的なニュースメディアを立ち上げたことには、各方面から反響が寄せられています。



(以下参考)

<ITpro(日経ニューメディア)>

『ラジオ番組を文字でも楽しむ エフエム東京、ネット時代に新挑戦』

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/news/15/042101382/>

エフエム東京(TOKYO FM)は 2015 年 4 月 21 日、新たなウェブコンテンツ「TOKYO FM+」(トウキョウエフエムプラス)を 20 日に立ち上げたと発表した。TOKYO FM のラジオ番組を文字で読んで面白い記事に仕立てる。1 週間に放送する 150 以上の番組の中から選りすぐったものばかり、毎日配信する。他のウェブサイトでは読めないオリジナル記事で、差別化を図る。

< WebR25 (リクルート) >

『エフエム東京 ラジオ番組を活字化』

http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/jikenbo_detail/?id=20150424-00041914-r25

(中略) ツイッターには、

「音声と活字のハイブリッド」

「文字なら自分の好きなときにパッと読めるというメリットはあるだろうね」

という歓迎や期待の声があがっていた。

また、TOKYO FM は、過去に「見えるラジオ」を 1994 年から提供してきた。しかしネット環境が整ったことなどを理由に、「役割を果たし終えた」として、昨年 3 月 31 日で終了している。それを思い出したツイッターユーザーからは「『見えるラジオ』を思い出したのは私だけではないはず。。」

など、懐かしむ声も寄せられている。ネットユーザーの中には、ラジオを文字起こしする熱心なファンも多いだけに、今後の動向が注目を集めそうだ。

< shimotsu (大手 Web プロダクション若手社員による個人ブログ) >

『すべてのラジオ局は TOKYO FM を見習え』

<http://epochmaking.hatenablog.com/entry/2015/04/29/170201>

(前略) Web 上に「記事」という形でテキスト化して残しておくことは、非常に意味のあることだと思います。検索ワードとして引っかかり、そのものの放送を聞いていなかった人でもその情報を手に取ることができる。

これはまさに、ラジオ番組という「フロー」型のコンテンツを「ストック」型に変換することであり、僕のなかでは、放送を終えて一度死んでしまったコンテンツに新たに息を吹き込むようなイメージですらあります。(中略)

しかも、今回の「TOKYO FM+」はスマートニュースのチャンネルも開設しており、「検索結果として得たい」という層以外の、特定の情報を求めているわけでもない層にもリーチすることができます。これをラジオ局が公式でやるのはなかなか革命的なことだな、と。

ただ、この「TOKYO FM+」に関して、現時点ではまだちょっと物足りない感じがします。ひとつおき記事を読んでみたのですが、まだ「ラジオの放送とそれに付随するニュース」くらいの記事が多く、「情報」としての色味が強い気がします。(略) 放送内で話せなかったトークなり、パーソナリティのコラムなり、なんでもいいですが、Web と融合する形で、新たに + α の価値を付加した上で息を吹き返してくれたら、リスナーもそうでない人にとっても意味のあるコンテンツが生まれてくるんじゃないでしょうか。(略) 今回の件に関して TOKYO FM には非常に期待しています。これを足がかりに、J-WAVE とか、ニッポン放送、TBS ラジオあたりが重い腰を上げてくれると最高なんですけどね。

今後数年間のそのあたりの動きで、各局の明暗がはっきり分かれそうですね。

■TOKYO FM 開局 45 周年特別番組を放送

TOKYO FM は、4 月 26 日(日)に、開局 45 周年を迎えました。これを記念して、4 月 29 日(水・祝)には、9:00～20:55 までの約 12 時間を通して、渋谷スペイン坂スタジオから、「TOKYO FM 45th Anniversary Special ～Your Voice, Your Music」を放送しました。

この日は、平日ワイド番組パーソナリティが、いつもと違う組み合わせのパートナーとともに交代しながら放送を担当し、「この 45 年、みんなが愛したラブソング」をテーマにしたリクエストに応える形で番組をお送りしました。

さらに番組の合間には、TOKYO FM の人気アーティスト番組のスピノフ版もこの日限りでオンエア。松任谷由実、山下達郎、桑田佳祐、今井美樹、福山雅治、SEKAI NO OWARI といったアーティストが、メッセージとともに、45 年の音楽シーンの中から選び抜いたラブソングをお届けしました。

また、当日スタジオ横の PARCO スペイン坂広場では、平日ワイド番組パーソナリティが、それぞれの企画で、リスナーをおもてなしする企画も同時開催。集まったリスナーと直接対面し、交流を深めました。



▲中西哲生のクロノス テーブルサッカー対決



▲住吉美紀 Blue Ocean 野点(のたて)お茶会



▲LOVE CONNECTION LOVE ミニライブ



▲アポロン 齋藤美絵 オリジナルバッグデコレーション



▲シンクロのシティ 青空テーマミーティング
(5月11日週の番組テーマをリスナーと会議)



▲Skyrocket Company 大名刺交換会

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○「TOKYO FM+」に関してだが、各局ともWEBサイトをもっているいろいろな案内をしているが、番組の案内にとどまらずに、見て楽しめるような要素を提供しているのが、他局にはまだないということか？

■当社はわりと早いうちから、「見えるラジオ」に始まり、「keitai.fm」など、番組情報の文字情報化、コンテンツのアーカイブ化は他局より先駆けてやってきたのではないかと思います。決して、他局の文字情報に価値がないわけではないが、今回、新しいユーザーの取り込みのため、新しいネットメディアと組む取り組みを他に先駆けて始めた。ここまでやっているのは、他にまだ例がない。新しいリスナー開拓のためには、スマホユーザーの取り込みが欠かせない中で、スマホのニュースメディアに対してアプローチを始めた。

○確かにリスナーに対してのサポート的な情報ではなく、ノンリスナーへのアプローチになっている。

■単なる番組の採録で、番組ホームページの内容と変わらないものではなく、独自に編集機能を設けて、キュレーション作業をした上で、ネットニュースに成りうるように構成している。

○そのネットニュースを活字で見ながら、音声のダイジェストも聴けるようなものになっていたら良いのではないか。

■再放送のような形で放送音源をオンデマンドで聴くのはまだ不可能だ。あくまで私たちは24時間の編成の中でリアルタイムに聴いていただきたいのが最優先なので、聞き逃した方へのサービスは痛しかゆしなところがある。音声を聞かせることはしていないが、文字編集と情報編集だけでも、情報価値のあるものが出せるといい。

○そこにさらにユーザーがコメントを書き込むなど、さらなる反応が得られて、2way が成立する形だと尚良いと思う。

○編集部を立ち上げてやっているのが素晴らしいと思う。

ラジオを常日頃から聴く習慣のない人でも、電車の中など移動中に皆スマホで、様々なニュースからゴシップまで様々な記事を見ている。配信元から拡散されている記事をたくさん見ているので、その中でTOKYO FMの名物ブログやエディターの方による記事が拡散され、「またTOKYO FMの人が面白いことを書いている」というように名物化していくと、それがキャラクター化され、それが同時に様々なニュースサイトに広がっていき、番組の内容とは別に、今週の出来事に対する“目利き”のようなことを発信できるようになると、注目度が上がるのではないか。音楽以外のところからも人が入ってくる流れができ、そこが音楽につながっていく流れができると、スマホユーザーのニーズに合うと思う。くだらないものから、シビアな問題まで、いろんな記事をみんなスマホで読んでいる。その中で、TOKYO FMの人にしか書けないような裏話など、書きものとしてのブランディングができると、一気に広まると思う。

■独自に編集部を組んだのは今回初めての取り組みだが、早いうちにそういったポジショニングを確立できるように努めたい。

議題2: 番組試聴（事前試聴:120 分）

【番組名】「TOKYO FM&JFN present

EARTH×HEART LIVE 2015 supported by JA 全農」

出演：松任谷由実、秦 基博、JUJU

ストーリーテラー：大沢たかお

演出：松任谷正隆

テクニカルディレクション：Rhizomatiks（ライゾマティクス）

番組ナビゲーター：高橋万里恵

【放送日時】 2015 年 4 月 22 日（水） 19:00～21:00 放送

【番組概要】

TOKYO FM をはじめとする JFN38 局は、1990 年に、“EARTH CONSCIOUS ～地球を愛し、感じるころ”のメッセージを掲げて地球環境保護を呼びかける世界中継コンサートをスタートしました。2011 年の東日本大震災を契機に、“EARTH CONSCIOUS”とともに、TOKYO FM と JFN のステーション・キャンペーンテーマである“HUMAN CONSCIOUS～生命(いのち)を愛し、つながる心”をメッセージに加え、コンサート名を「EARTH×HEART LIVE」といたしました。

26 年目を迎えた今年、開局 45 周年の節目として、当社ともゆかりの深い松任谷正隆氏を演出に迎え、30 年以上に渡りレギュラー番組を務める松任谷由実、そして秦基博、JUJU の3アーティストが競演。ストーリーテラーにジェットストリームの機長大沢たかお、映像クリエイティブに昨年「未来授業」で講師も務めたデジタルクリエイターの真鍋大度率いるライゾマティクスを迎えて実施いたしました。

公演は発表と同時に大きな話題となり、4 月 19 日（日）の東京国際フォーラムの公演は瞬く間に完売となり、4 月 18 日（土）に同じく東京国際フォーラムにて追加公演を実施、二日間で 10,000 人の観客動員を果たしました。

「100 年後の未来に種を蒔こう」をテーマに 2115 年から 2015 年を見つめるという、時空を超える構成演出を施し、100 年前から届いた手紙、3 人のアーティストの名曲と斬新な映像がコラボレーションする約 2 時間半のステージでは、3 人がこの日の為書き下ろした新曲「POST CARD」も披露され大きな感動を呼びました。

この模様は、アースデーである 4 月 22 日（水）19:00～21:00、TOKYO FM をはじめとする JFN 全国 38 局で放送致しました。さらにライブの様子が、中国の上海電台、中国国際放送、Radio Television Hong Kong、シンガポールの Y.E.S FM、タイの Radio

Thailand、イギリスのBBC、アメリカのカレッジFMなど、海外FM局でも近日放送される予定です。

【参考映像インデックス】

- 0'00～2'06 大沢たかお ナレーション ～オープニング
2'07～ Rhizomatiks 制作 映像コンテンツ
3'30～ 大沢たかお ナレーション ～メール紹介
アンドロイド（出演者）のトーク
5'13～ ♪リフレインが叫んでる／松任谷由実&秦 基博
＜1988年・松任谷由実＞
5'50～ ♪ラストシーン／JUJU&松任谷由実 ＜2014年・JUJU＞
6'35～ ♪朝が来る前に／秦 基博&JUJU ＜2009年・秦 基博＞
7'32～ ♪奇跡を望むなら／JUJU ＜2006年・JUJU＞
8'42～ ♪やさしさに包まれたなら／松任谷由実 ＜1974年・荒井由実＞

9'54～ ♪やさしさに溢れるように／3人共演 ＜2009年・JUJU＞
11'17～ ♪守ってあげたい／3人共演 ＜1981年・松任谷由実＞
12'07～ ♪POST CARD／3人共演 ※本公演のための書き下ろし楽曲
＜2015年・松任谷由実&秦 基博&JUJU 共作＞

12'46～ ♪ひまわりの約束／秦 基博 ＜2014年・秦 基博＞



【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

○今回は事前試聴で120分の番組をすべて聴かせていただいた。通常は20～30分に再編集されたものを試聴しているので、その編集によってイメージの異なるものになってしまう場合もあるが、今回の事前試聴は良い試みだったし、音楽番組なので楽しめた。

○今回のように、出演者がコラボした形式は初めてだったか？

■コンサートの最後に複数のアーティストがコラボレーション楽曲を披露する演出はあるが、今回ほど、全体的にアーティストが組合せを変えながら全体的にコラボレーションした演出は恐らく初めてだったと思う。

○キャスティングが素晴らしかった。ライブにも行かせてもらったが、ライゾマティクスの映像も素晴らしかったし、楽曲も歌詞で選曲している感じがして、「地球に残したい愛」

などのメッセージの中で、3人の曲がベツタリではないが、ずっと聴いているとどこかでつながっていて、演出と歌そのものが地続きになっていて、メッセージを提示している良い演出だった。

ナレーターと、サイボーグになったアーティストの3人が地球についての様々なデータにコメントする場面があったが、その内容がなんとなくビッグデータを使っていることが強調されていて、例えば紛争なら紛争というキーワード一つで良いので、より具体的な映像なり言葉というのがあればいいなと感じた。「紛争の数」や「平均寿命」などデータが示されるが、それぞれのトピックに対するコメントが表層的に終わってしまっていた。せっかくそこまで仕掛けをし、歌も気持ちとしてつながっているのだから、もう一步深く示したら、もっと訴求力があつたのではないかと思う。

また、ラジオ番組になった音源として改めて聴いたときには、高橋万里恵さんのナレーションが加わったので、よりフレームがはっきりして、良かった。3人の話がラジオドラマのように聞こえていて、そこももう少し具体的に内容があつたら良かったと思う。歌はそれぞれの持ち歌を少し重ねながら歌う流れが非常に美しく、コンサートは感動しながら聴いた。

○毎年どこかで行われるようなロックフェスでは、30分ごとにアーティストが登場して個別のファンがその30～40分のステージを楽しむ形で、また次のステージに入れ替わるものだが、今回、このお忙しいメンバーを集め、曲も全部有機的につながっていて、一体どうやってリハーサルを重ね、ここまで演出できたのか、ということに驚嘆した。今回、松任谷正隆さんを演出に迎えられたのは、45周年の特別企画だからか？

■松任谷さんのこだわりの演出のリハーサルは、かなり入念に行われた。

○コンセプト、物語に衣装があつて、外部のアーティストも呼び寄せて、というこの形は、なかなか毎年はできない取り組みだと思う。

素晴らしいと思うのは、とっかかりがいろいろと散らばっていることで、ライブに足を運ぶハードルが下がっていることだ。例えばユーミンさんのコンサートに行きたい場合に、コアなファンたちによる暗黙のルールがあるのではないかと少し尻込みしてしまうところがあるが、この場合はミックスされているので、一見さんも行ける雰囲気はすごくある。反響の資料も拝読しているが、お子さんと一緒に行った人の感想などがあり、非常に良いと思う。物語の中に埋め込まれていた、世界的な関心事にもお客さんが関心を持ったことも窺えるし、ただのライブではなく、今回にしかない手応えのあるイベントになったのではないか。皆さんそれぞれスタイルとスタンスのあるアーティストが一つのコンセプトに寄り添って創り上げたことが、本当にすごいことだと思っている。

■これまでも複数のアーティストによるコンサートをやってきたが、ファンもそれぞれにバラけてしまい、動員に支障を来すなど、何度も反省があつた。今回ここまで志向性

のあるアーティストたちが揃ってくれたことと、松任谷由実さんにここまでのことをさせられるのは松任谷正隆さんしかいなかったのも、それで一つの軸ができたことが良かった。

○ライブ番組だと聞いて、番組の音源を試聴したが、最初の 8 分まで全く音楽がなく、説明とコマーシャルが続き、萎えてしまった。コンサートの途中の 100 年後の地球から語っているトーク部分もダラダラと聴こえ、余計な BGM も気になった。番組全体の内容が盛りだくさんすぎて、余白がないのが、自分には苦痛だった。映像を見ても、「言霊」が感じられず、ただうるさいという印象だった。

○この3人のコラボは TOKYO FM でないとできないと思った。が、構成に関して難があると感じた。一番の問題は、100 年の時空を超えていないこと。2015 年と 2115 年の時間的距離感がつかみにくい。「100 年先」というキーワードに私たちは反応するが、構成がそうならないせいか、100 年前からの手紙として、「LINE の友人グループの話」や、「別れた彼が忘れられない」など、ちまちまとした現在の日常が出てくると、何の話をしているのか、混乱が起きてしまう。ストーリーテラーの部分の内容があまり面白くなかったし、ナレーションも気取った感が過剰で入ってこなかった。導入部分では、「これから 100 年先に旅をする」ということでそそられたが、最後までその期待感が続かなかった。構成をもっとノーマルな JET STREAM にするか、もっと SF 的に飛ぶか、どちらかではないかと思うが、今回は半端感があった。「私たちの新しい生き方を提唱する」というコンセプトも伝わらなかったし、「EARTH CONSCIOUS」のマインドを一番感じたのが CM 部分だったのが皮肉だった。せっかく面白いところに着眼したのに、もったいない。

○今回の事前試聴は、普通のラジオリスナーと同じように、車を運転している間に聴いた。最初は、「JET STREAM で来たか」と興味を持ったが、「100 年後」というキーワードにすごく引っ掛かった。何の事だかわからない。運転しながらなので、必死で聴いているわけではない中でも、「100 年」というキーワードは引っ掛かってくるのだが、10 年後でさえ全く想像できない状況なのに、ましてや 100 年後は想像力の範囲外だと思う。最後まで番組を聴いても、今日映像を見ても、その「100 年」が何だったのか、わからなかった。

これだけのビッグミュージシャンが、お互いの良さを引き立て合って、コラボレーションしているのは新鮮だった。普段ソロでやっている時ではない部分を聴けて、ファンとしても嬉しいし、今まで馴染みのなかった秦さんも素直にいいなと思った。それぞれのファンでない人にも聴かせる部分があって、ファンにしてしまうという部分があった。番組を一つの流れの中で聴いていると、コンセプトに合った CM と、そうでない CM の差異も目立った。

○コンセプチュアルなもののメッセージも伝えつつ、音楽をやるときに、どのくらい理屈っぽく、シリアスな部分を出して考える時間を持たせるかは難しいところだ。

音楽とその問題提起は全体的にもものすごく合致するものではない気もするが、歌や歌詞にメッセージが宿り、理屈さえも吹き飛ばしてしまうのが音楽の力だとも思う。今回、そのバランスを取りながら作られている様子は、伝わってきた。

■「100年の時空」というコンセプトを具体的に表現するのが難しい演出であったことは事実だと思う。投げかけと映像処理と、アンドロイドになった3人のアーティストの会話と音楽という、三位一体ならぬ「四位一体」でお客様一人一人の想像力の何かが引き出せればいいという意図だった。これを2時間の番組にすると、単なる音楽ショーにもできない。このコンセプトをどう伝えるかということについて、番組のナレーションの表現には苦慮した。また、ご指摘の通り、コンセプトを表現しきれていないのでは、いう板挟みの中で、この2時間の編集も非常に苦心した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「SPO☆LOVE」
5月30日(土)5:00～6:50放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、6月9日(火)に開催することを決めた。